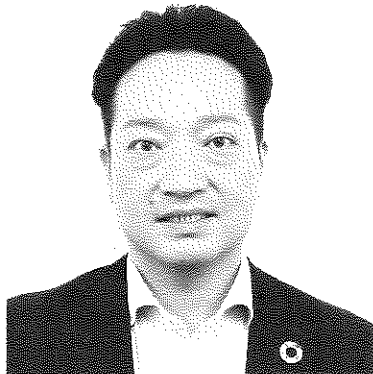


## 新社長インタビュー

# 事業を継承し、さらなる飛躍を目指す

富士マテリアル 代表取締役社長 西尾 一氏

レアメタルやレアアースのリサイクルを手掛ける富士興産は原料リサイクル事業を分離独立させ、新たに「富士マテリアル」を設立し10月1日から業務を開始した。新会社の社長には富士興産専務の西尾一氏が就任した。また他の役員は取締役副社長に王建強氏、常務取締役に小川亮太氏が就任した。新会社では、富士興産の事業を継承し、レアメタルリサイクラーとして持続可能な社会実現への貢献を目指していく方針を掲げている。同社の西尾社長に就任の抱負や今後の展開について話を聞いた。



西尾 一 社長

客の訪問など営業活動全般に従事していた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大を機に外出が難しくなったため、主力拠点の大正工場・倉庫で内勤に従事し、職場環境の改善に取り組んだ。その一環としてまずは働き方改革に注力し、残業を無くすため勤務体制を早出と遅出の2交代制に変更した。また、猛暑や熱中症対策としてヤード内に大型空調設備の導入や休憩室を完備した事務所棟に大幅リニューアルするなど、従業員が過ごしやすい職場作

りにも努めた。

今後、社長という立場になっても大正工場・倉庫の内勤は継続したいと考えている。やはり商材が動く現場に居るからこそ、学ぶべきことや改善するためのヒントが発見できる。またお客さまや従業員のニーズを把握できる良い機会にもなる。これらのメリットを生かし、引き続き職場環境の改善に注力したい。

## 次世代に向けた事業継承

一社長就任の抱負は。

富士興産で約18年間勤務してきた中で、資源バブルの崩壊やリーマンショック、創業者の小川会長が死去するなど事業に影響が出るような大変な時期があった。それでも離れず取り引きいただいているお客さまや働いてくれている従業員のおかげで、ここまでやってこられた。新会社でも富士興産の時と同様に従業員の雇用を守り、さらにはお客さまとの信頼関係を強固なものにしたい。

一原料リサイクル事業の独立について。

独立は次世代に向けた事業継承を目的としている。富士興産は今年で設立35周年を迎え、お客さまや従業員に恵まれたこともあり業績は安定傾向にある。また富士興産の赤嶺社長と二人三脚で社内の構造改革に努め、社員に若い世代も増え万全な体制が整いつつあった。しかし、会社のさらなる飛躍を目指すうえで事業継承の課題を解消することも必要と考え、様々な事業継承のスキームを検討し新会社の設立を決めた。

## 職場環境の改善に注力

一事業内容は。

レアメタルやレアアースを中心としたスクラップをリサイクルしていく。また仕入れと販売業務は、大手製造や製鋼メーカー、同業他社、アジアやアメリカなどの海外を中心に行っていく予定だ。これらは全て富士興産から引き継いだもので、新会社でありながら事業基盤が確立されていることは強みと考えている。この強みを生かし、業務の拡大を図っていきたい。

一西尾社長が富士興産で取り組んできたことは。

入社から専務までの間は、新規顧客の開拓や既存顧

## 高校生の新卒採用

一今後の展望は。

会社を発展させるには若い世代の力が必要だ。そのため人材確保にも重点を置き、高校生の新卒採用を計画している。現在は地元の高校で会社説明を行っており、近いうちに面接を実施する予定だ。そこで採用が決まれば、来年4月に入社してもらうことになるので、それまでに受け入れる準備を整えていきたい。

また地元で愛される企業を目指すため、社会貢献も積極的に取り組んでいく。富士興産は、地元の小中学校に連絡帳やバスケットボールを寄付するなど地元で根付いた社会貢献を行ってきた。当社もこれらの取り組みを見習い、例えば地元を中心とした雇用に努めるなど、地域の活性化に寄与したいと考えている。

## 【略歴】

1981年10月21日生まれ。42歳。大阪府東大阪市出身。2004年大学卒業後、呉服販売会社に入社。呉服の営業業務を経験。2006年富士興産入社。半年間の現場研修後、国内や海外の新規顧客開拓などの営業活動に従事。2014年取締役部長就任。2016年常務取締役就任。2019年専務取締役就任。2024年10月富士マテリアル代表取締役社長就任。趣味は野球観戦、旅行、キャンプ。好きな言葉は「神は乗り越えられる試練しか与えない」。